

●人工林を育てる●

地ごしらえ

草を刈り、枝などを片づけて、苗木を植える場所をつくる。

植林

木を切ったあとに、一定の間かくで苗木を植える。

下刈り・つるきり

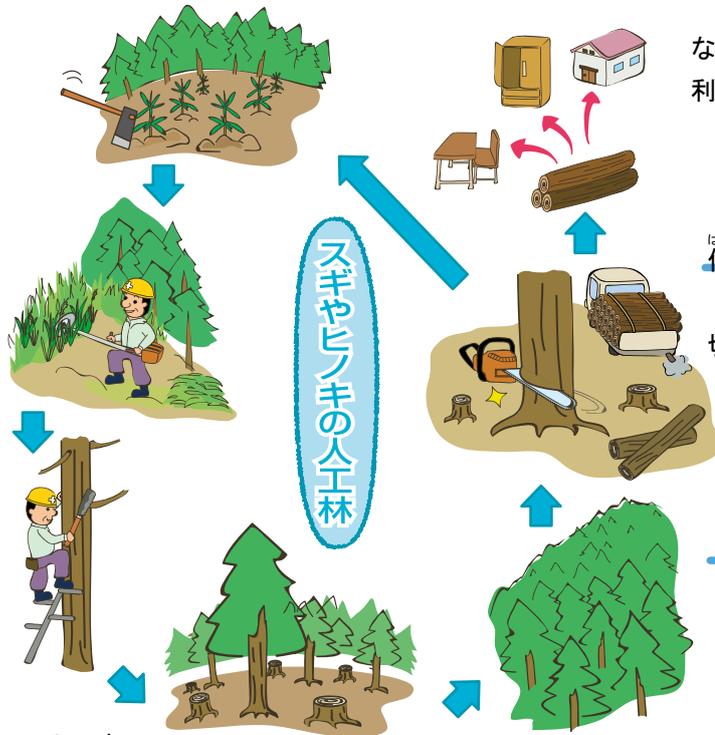
植えた苗木より大きくなるまわりの草やつるを刈り取る。(苗木を植えてから10年くらい毎年行う)

枝打ち

日の当たらない下の方の枝を切り落とし節のない木材をつくる。(苗木を植えてから8～20年くらいまで行う)

間伐

成長の悪い木や混み合ったところの木などを間引き、森林の中を明るくして幹を太らせる。(苗木を植えてから15～30年くらい位まで行い、植えた時の3分の1までの本数に減らす)



利用

乾燥・製材して家などをつくるために利用する。

伐採

大きく育った木を切って運び出す。

育った木

苗木を植えてから40～45年で木材として利用できるようになる。

●手入れ不足の人工林●

スギやヒノキの人工林は、何十年もかけて人が手入れをしながら育てる森林です。手入れが行きとどいていない人工林は、日がさしこまないため、下草が生えず、すんでいる生きものも少なくなっています。

